

特集

梅毒の眼合併症

序 論

雑賀司珠也*



図 厚生労働省作成の令和4年度版梅毒啓発リーフレット

左：表、右：裏

出典：厚生労働省ホームページ (https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/leaflet_baidoku_1124_s.pdf)

今月は「梅毒の眼合併症」を特集させていただきました。読者の皆様もご存知のように、梅毒感染は増加の一途です。筆者は昭和63年に医師免許を取得し、和歌山県立医科大学眼科学講座に所属しました。当時の和歌山県立医科大学附属病院眼科では、梅毒性の眼疾患のメインは母体感染を原因とした先天性の網膜病変を持つ成人患者さんや陳旧性角膜混濁、さらにはその混濁による弱視

が主でした。

しかし、わが国では年間約11,000人が報告された1967年以降、減少してきたものの、2011年頃から再び増加傾向となっています。2019年から2020年にいったん減少したものの、2021年以降は増加の一途をたどっています。厚生労働省のホームページに詳細が記載されています¹⁾。

我々眼科医も感染抑制に対する啓発活動を行うことも重要ですが、眼科専門医として早期発見と適切な治療、さらには母体感染の胎児への影響に

*Shizuya SAIKA 和歌山県立医科大学眼科学講座

関する情報提供など，専門知識を駆使しての現場での治療と社会への情報発信が期待されると思います。

読者の皆様の年齢構成も幅広いと思います。筆者のように過去の印象が強い年代，あるいは近年の世情に親しんでおられる世代の眼科医の先生方で，梅毒を原因とする眼疾患に対する印象に違いがあるかもしれません。しかし，残念ながら増加

の一途をたどる現実を目のあたりにするなか，今回の特集は是非とも御一読いただきたいと切望する次第です。

文献

- 1) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html

*

*